

Museum of Yokohama Urban History ハマ発  
**NEWSLETTER**  
 ハマ発ニュースレター 横浜都市発展記念館館報●第28号

[特集]  
**企画展**  
 「ようこそ! 横浜地図ワールドへ」より

# 民間作成の 都市地図等について ~日本地理附図研究所

[展示余話]  
**横浜の戦争孤児を保護した  
ボーイスホーム**

[資料紹介]  
**ホテルマンが撮影した昭和10年代の横浜  
~ホテルニューグランド所蔵写真より~**

横浜都市発展記念館

ハマ発 NEWSLETTER 第28号 2017(平成29)年4月22日発行(年2回発行・不定期)  
 編集・横浜市発展記念館 発行/公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団 〒231-0021 横浜市中区日本大通12 TEL. 045(663)2424 FAX. 045(663)2453  
 題字ロゴ/高橋健介 印刷・株式会社野馬印刷社 本誌からの無断転載を禁止します。



## 寄贈・寄託資料の紹介

平成28年10月から平成29年2月までに受贈した資料です。(敬称略)

| 寄贈資料名                            | 点数 | 寄贈者  |
|----------------------------------|----|------|
| 「大日本分県地図」雄文館<br>(明治45年、大正14年訂正版) | 1  | 山本光枝 |
| 「横浜市保土ヶ谷区全図」<br>横浜市保土ヶ谷区役所(昭和7年) | 1  | 山本光枝 |
| 「関東大震画報」第16902号付録<br>(大正12年10月)  | 1  | 渡辺宏二 |
| 「週刊写真報知」第1巻第1号<br>(大正12年10月)     | 1  | 渡辺宏二 |
| 『21世紀への道～日産自動車50年史』<br>(昭和58年)   | 1  | 小松富一 |
| 『交通公社の時刻表』昭和39年10月号              | 1  | 小松富一 |
| 横浜銀行等銀行関係ほか個人所蔵資料<br>[一括]        | 40 | 磯部伸樹 |

## MUSEUM SHOP

ミュージアム・ショップより

刊行物

- ①『焼け跡に手を差しのべて 一戦後復興と救済の軌跡』横浜市発展記念館／編 定価1,000円+税
- ②『横浜・山下公園一海辺に刻まれた街の記憶』横浜市発展記念館／編 定価880円+税
- ③『ハマを駆ける クルマが広げた人の交流』横浜開港資料館・横浜市発展記念館／編 定価1,000円+税
- ④『目で見る「都市横浜」のあゆみ』横浜市発展記念館／編 定価1,239円+税

DVD

- ①『映像でたどる昭和の横浜』シリーズ  
定価各1,429円+税  
第1巻・港とまちづくり 第2巻・都市の交通 第3巻・子どもたち



## 横浜都市発展記念館 利用案内

■開館時間

午前9時30分～午後5時  
 4/5, 5/5, 6/2, 8/11, 9/23は午後7時まで  
 (券売は閉館30分前まで)

■休館日

毎週月曜日・年末年始ほか  
 (月曜日が祝日の場合は開館、翌平日に休館します。)

■観覧料

上記企画展開催期間  
 企画展 一般300円 小・中学生150円  
 (企画展の入館券で常設展もご覧いただけます。)

常設展のみ 一般200円 小・中学生100円

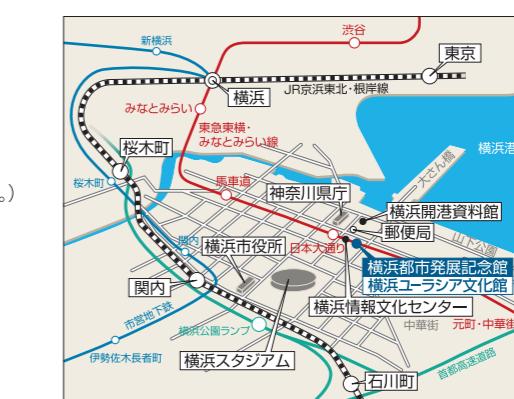
それ以外の期間

常設展のみ 一般200円 小・中学生100円

- 毎週土曜日は小・中・高校生無料
- 「濱ともカード」「障害者手帳」「愛の手帳(療育手帳)」などをお持ちの方は、無料です。

■ホームページ

<http://www.tohatsu.city.yokohama.jp/>



交通アクセス

- 東急東横・みなとみらい線日本大通り駅(3番出口) 0分
- 横浜市営地下鉄関内駅(1番出口) から徒歩約10分
- JR京浜東北・根岸線関内駅(南口) から徒歩約10分
- 横浜市営バス「日本大通り駅県庁前」下車徒歩1分
- あかいくつバス「日本大通り」下車徒歩1分

●表紙図版

「横浜名所案内図絵～市街電車案内」(部分)  
 1921(大正10年) 当館所蔵

※本誌は当館ホームページでも  
ご覧いただけます。



編集後記  
 春の企画展では、横浜市内各地の地図を一堂に公開いたします。普段の展示では都心部の歴史が中心になりますが、今回の展示では全18区の地図資料を展示いたしますので、市内全域の皆様にご来館をいたければ幸いに存じます。(西)

◎次号発行予定 平成29年10月上旬

ようこそ!  
**横浜地図ワールドへ**  
 まちの移りかわりが見えてくる

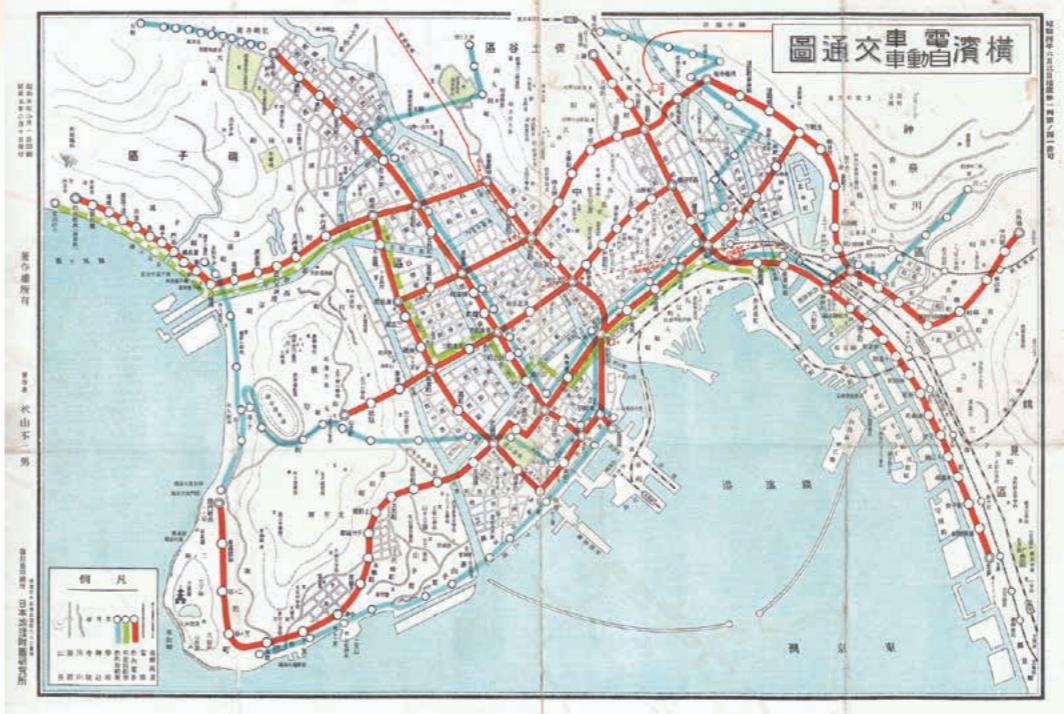
「地図」とは何でしょうか。この企画展では、近現代を対象として、ますますさまざまな地図とその作成の歩みを紹介し、次に「横浜」の名を付した地図を時代の順に集成して、そこから横浜のまちの移りかわりを見ていきます。そして、広い市域を区分する全18区について、各区の姿を地図でたどりながら、横浜の詳細な地理を探ります。

【会期】2017(平成29)年4月22日(土)～7月2日(日)

【図録】『ようこそ! 横浜地図ワールドへ』  
 横浜都市発展記念館／編

# 企画展「ようこそ！横浜地図ワールドへ」より

## 民間作成の都市地図等について



① 横浜電車・自動車交通圖

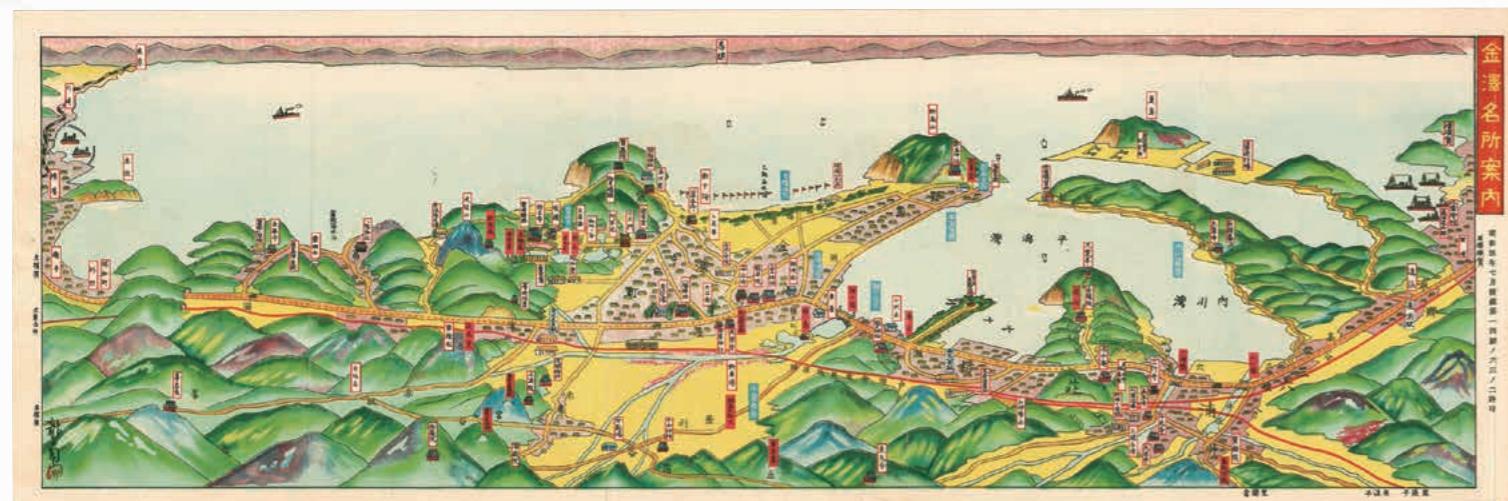
1930(昭和5)年 当館所蔵

タテ31cm×ヨコ46cm

赤山不二男著、日本地理附図研究所発行  
秋山不二男著、日本地理附図研究所発行  
赤線は市電、青線は市営バス、緑線は民営バス(横浜乗合自動車)の路線ルートを示す。

明治新政府にとって、正確な地図を作成し国土の地理を把握することは急務の課題でした。東京や横浜などの主要な都市では、明治時代の初期より測量にもとづく官製の地形図がつくれました。

一方、民間では、江戸時代より絵図・絵地図などの市販の出版物は多数ありますが、これらは方位や縮尺が正確でなく、実測による地図が発行されるようになるのは明治時代の後半からです。地図の対象は都市(人口密集地)や府県(広域)など、商品として採算の取れる地域に限られません。



② 金沢名所案内

1930(昭和5)年 横浜開港資料館所蔵・小泉元久家文書

タテ19cm×ヨコ77cm

表題:秋山不二男「湘南金沢名所案内～附 名所案内記事」(日本地理附図研究所・佐野善書店)



③ 最新実測番地入 新大横浜市全圖

1938(昭和13)年 萩谷茂行氏寄贈・当館所蔵

タテ55cm×ヨコ79cm

秋山不二男著、日本地理附図研究所発行

縮尺:1/25,000

その代表人だったと思われます。1929(昭和4)年頃に事業展開が本格化し、横浜をはじめ横須賀・川崎・静岡などの都市地図と一部、東京の区分地図を発行しました。また、神奈川県や三浦半島などの広域図、交通関係の路線図(1)や観光名所の鳥瞰図(2)なども作成しています。とりわけロングセラーとなつたのは、横浜の都市地図である「最新実測番地入新大横浜市全図」です。好評を博してか改版・改訂が重ねられ、1931(昭和6)年頃から1940(昭和15)年まで刊行が続いています。その間に地図の見やすさにも次第に改良が加えられ、③は1938(昭和13)年の版ですが、当時、改変を重ねていた横浜の市区の境界が非常にわかりやすくなっています。

しかし、1940(昭和15)年、戦時の経済統制で国内の地図会社は統合され、民間での地図出版は制約されることになります。詳細は不明ですが、日本地理附図研究所もその際に統合されたか、あるいはこの年を最後に廃業したものと考えられます。戦後は、地方での独自の地図出版は減少し、全国でシリーズ展開をする大手の地図会社が主流となつてきます。

(岡田直)



# 余話 展示

# 横浜の戦争孤児を保護したボーアズホーム



ホテルマンが撮影した  
召口三代の黄兵

～ホテルニユーグランド所蔵写真より～



① 佐賀順次郎

## 発見された戦前のネガファイルム

当館では、昨年秋にギャラリー展「写され  
た昭和10年代の横浜～ホテルニユーグラン  
ドに残されたフィルムから～」（平成28年10月  
22日～29年1月15日）を開催した。この写真  
展は、ホテルニユーグランド（中区山下町10）で  
発見された35mmモノクロネガフィルムの写真か  
ら、横浜港や山下公園など10点をセレクト  
したもので、関東大震災からの復興を遂げ  
たもので、戦争の時代へと向かい一つあつた昭和10年代  
の横浜の情景を紹介した。

『ホテル・ニューグランド50年史』(昭和52年)によると、『カメラ・エース』は外国のホテルで宿泊客に無料配布しているショッピング・ニューズなどを参考に製作したもので、四六判、30頁の小冊子であった。佐賀順次郎は写真撮影だけでなく編集も担当していた。ホテルの施設案内に加えて、宿泊客の紹介やインタビューやも誌面が割かれており、宿泊客に日本での滞在を記念として好評を博したという。

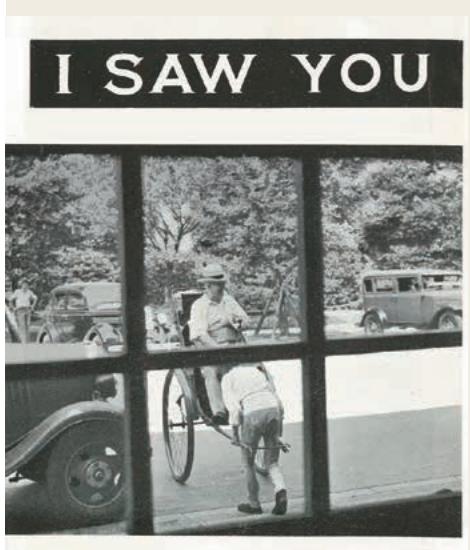
カメラ・ニュースの世界

年発行のもの3点が確認できる。上記ファイルのなかには、『カメラ・ニュース』に掲載されたことが確認できる写真が複数枚あり（④）、たとえば昭和13（1938）年8月に来日した「ヒトラー・エゲント」がホテルニューグラントを訪問した際の写真（⑤）は、のちに昭和13（1938）年10月号の『カメラ・ニュース』に掲載されている。発見されたフィルムはごく一部であると思われるが、およそ昭和10年代前半の撮影とみてよいだろう。

『カメラ・ニュース』が発行されていた時期は、正確には判明しないが、ホテルニューグラン邸所蔵資料に昭和12（1937）～13（1938）年発行のもの9点が、また横浜開港資料館



## ②『ニューグランド・カメラ・ニュース』



The Hotel Rikisha is built to be safe enough for a ride of 200 kilos heavyweight boxing champion? The hotel management is very glad to present a copy of the picture to the General

⑥「お姿拝見」  
『ニューグランド・カメラ・ニュース』(年代不明)より  
株式会社ホテルニューグランド所蔵



⑦ 人力車に乗るモーガン  
「モーガン旧蔵アルバム」より 昭和11(1936)年  
当館所蔵

## お姿拝見

**⑥**は『カメラ・ニュース』の1冊(発行年不明)に掲載された1枚で、ホテル前で人力車から降りようとしている人物を捉えている。この人物は横浜に設計事務所を構えて活動していた建築家J・H・モーガンで、昭和8(1933)年にホテルニューグランドが屋上階を増築した際に、その設計を担当している。このときホテル屋上階にはテラスレストランが設けられ、中庭もスペイン風のパティオになりました。

「当ホテルの人力車は体重200kgのベビーボクシング王者が乗っても安全?」とのユーモアで、二つ目の説明が添えられている。文中にモーガンの名前が出てくるわけではないが、実際、昭和8(1933)年1月14日には、モーガンを含む横浜在住の外国人8人が集まって、「百キロクラブ」なる会が結成されている(『東京日日新聞』昭和8年1月15日号)。月に二度集まっておおいに飲み食いしながら互いの肥満を祝福しようというユーモアで、

## 建築家モーガンの

手元に渡つた写真

あふれた会である。しかも、その発会式の会場はホテルニユーグランのグリルであった。先の写真説明がこれらをふまえて書かれたものであることは間違いないであろう。ホテルヒューマンとの関係が垣間見えるようで微笑ましい。

# 建築家モーガンの手元に渡った写真

で撮影年月日が添えられており、それによると撮影されたのは昭和11（1936）年8月1日の午後2時である。『カメラニュース』が発行されていた時期ともおきく矛盾はしない。佐賀順次郎によって撮影された広報誌掲載写真が、被写体であるモーガンの手に渡り、記念として大事にアルバムに貼られていた。ホテルとモーガンとの間に、施主と設計者という関係をこえた親密な絆があつたことをうかがわせる。

ホテルマン佐賀順次郎が撮影した写真は、昭和10年代という時代の記録として貴重であることは言うまでもないが、広報誌の取材過程で撮影した背景を考えれば、ホテルと滞在客とのあ

**(7)** はモーガン旧蔵アル  
バムのなかの1枚で、自邸  
で家族とともににくつろぐ  
プライベートな写真に混  
じつて、この1枚が台紙に  
大きく貼られている。写  
真にはモーガン自身の手

いだの交流を読み解く資料としても、また重要な意味を持つている。